

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19320082
 研究課題名 (和文) 韓国語語彙辞書データベース構築と外国語サイバー・ユニバーシティ用
 韓国語 Web 辞書開発
 研究課題名 (英文) Developing Korean Vocabulary Database and Korean Web-based
 Dictionary for Foreign Language Cyber University
 研究代表者
 曹 美庚 (CHO MIKYUNG)
 九州大学・言語文化研究院・准教授
 研究者番号：30351985

研究成果の概要 (和文)：本研究の成果として、Web 基盤の多数の韓国語 IT 活用教材の作成ならびにそれらの学習効果の検証、高出現度・高分布度語彙の学習段階別抽出ならびに韓国語教育・学習のための「教育基幹語彙」の選定、教科書語彙分析データベース (KT コーパス) の Web 上の公開、活用形から基本形が見出せる韓国語 Web 辞書の開発、韓国語学習者用 Web 辞書の中身の記述ならびに学習基幹語彙のランク付け等が挙げられる。これらの成果により、韓国語教育の IT 化と自律学習環境作りに大きな進展があった。

研究成果の概要 (英文)：The research outcomes are as follows: development of Korean IT-based teaching/learning materials and verification of their effects on learning, extraction of vocabulary with high frequency and wide distribution at different stages of study as well as the selection of core educational vocabulary, publication of Korean textbook vocabulary database (KT Corpus) on the web, development of web-based dictionary which can easily identify the basic form of a word from inflected ones, and description of contents and ranking of core educational vocabulary for web-based dictionary. Based on these research outcomes, there has been some significant progress in IT-based Korean teaching/learning and development of self-learning environment.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2008年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	8,100,000	2,430,000	10,530,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：韓国語学習者用 Web 辞書、韓国語教育、e-Learning、自律学習、語彙教育

1. 研究開始当初の背景
 当時、外国語教育において IT 化が急速に進展しており、英語はもとより独語・仏語など

の第二外国語教育においても Web 基盤教育システムの開発研究が活発に行われていた。しかしながら、このような趨勢とは裏腹に、韓

国語教育関連の IT 化は他の言語に比べかなり出遅れており、IT 教育のための基盤は皆無に近い状況にあった。そのため、韓国語教育用の IT 教材やコースウェア開発の基盤構築が急がれていた。

2. 研究の目的

(1) 日本の大学における韓国語教育において Web 基盤の IT を活用した学習支援環境を構築する。

(2) Web 基盤における韓国語の合理的な語彙学習システムを構築し、学習段階別教育・学習用語彙データベースを構築する。

(3) 活用形から基本形を見出せる Web 辞書システムを構築する。

(4) 学習者用韓国語 Web 辞書の内容を記述する。

3. 研究の方法

(1) 初・中級者が自律学習可能な Web 基盤の IT 活用教材を多数作成し、学習効果の検証を行った。

(2) 日本の大学の韓国語教育の現場で多用されている初・中級韓国語教材 32 冊について、本文のみならず練習問題等すべての韓国語部分の資料を収集し、形態素分析を行った。形態素分析の際に、韓国語教育・学習の面を重視し、語彙認定基準を設けた。各教材に使用されている語彙について、高出現度や高分布度語彙を学習段階別に抽出し、韓国語教育・学習のための「教育基幹語彙」を選定した。

(3) 教科書で使用されている重要語彙と学習者辞書の重要語彙を中心に語彙データベースを作成し、初・中級学習者用 Web 辞書の記述を行った。具体的には、テキスト・スクリプトを OCR で資料収集し、データ化した後、分析を行い、教育基幹語彙と想定される語彙を中心に内容の記述を行った。

(4) 学習教材を基盤に教育用重要語彙や教育基幹語彙の候補を選定し、韓国語学習者用 Web 辞書の記述を行った。

(5) 活用形が多岐にわたる韓国語の場合、活用形からワンタッチで基本形が見出せるシステムの構築が求められる。そこで、仮想検索や連想検索が利用できるようにシステムの処理を施した辞書のデータベースを作成した。

4. 研究成果

(1) Web 基盤の多数の IT 活用教材を作成し、学習効果を検証した。その結果、自律学習に役立つ教材と高評価を受け、学内功労賞を受賞した。また、多数の教材の実物と論文発表や講演等を通じて、韓国語教育における IT 化の進展と自律学習環境作りを牽引した。

(2) 各教材に使用されている語彙について

高出現度や高分布度語彙を学習段階別に抽出し、韓国語教育・学習のための「教育基幹語彙」を選定した。韓国語教育・学習現場で有効に活用される資料として出版・配布した。

(3) 教科書語彙分析のデータベースを K T コーパスとして Web 上に公開し、韓国語教育者が容易に検索利用できるようにした。

(4) 初級学習者も簡単に活用形から基本形が見出せる Web 辞書を開発し、活用形をクリックするだけで辞書データを高速で連想検索できるようにした。

(5) 発音・意味・例文・連語等が検索できるように韓国語学習者用 Web 辞書の中身を記述作成するとともに、学習基幹語彙のランク付けを行った。これらを WebOCM 内の韓国語辞書に搭載し、教育機関に無償で提供している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

- ① 曹美庚、対人関係における親密さとスキップ許容度：韓国人大学生の分析結果を中心に、比較社会文化、九州大学大学院比較社会文化紀要、査読有、vol. 16、pp. 1-14. 2010 年.
- ② 曹美庚、Presentation 活動を用いた能動的発揮の学習支援、朝鮮語教育-理論と実践、査読有、5 号、pp. 112-116、2010 年.
- ③ 李建、曹美庚 共著、ナショナル・カルチャーと予算管、京都学園大学経営学部論集、査読有、第 19 巻第 2 号、pp. 55-73、2010 年.
- ④ 林炫情、李在鎬、浅尾仁彦、曹美庚 共著、韓国語学習者作文コーパスについて、朝鮮語教育-理論と実践、査読有、5 号、pp. 121-124、2010 年.
- ⑤ 曹美庚、能動的学習活動のための授業改善と学習支援：日本人学習者の初中級過程で学術 Presentation 導入を中心に、外国語としての韓国語語彙教育：内容学と方法論構築、査読有、国際韓国語教育学会、pp. 189-198. 2009 年.
- ⑥ 曹美庚、ICT とポートフォリオを用いた自律学習—九大韓国語クラスでの実践、外国語教育の文脈化：「ヨーロッパ言語共通参照枠」+ 複言語主義・複文化主義 + ICT とポートフォリオを用いた自律学習、査読有、国際研究集会 2009、pp. 34-40、2009 年.
- ⑦ 하세가와유키코 (長谷川由起子)、한국어의 띄어쓰기와 단어 인정에 대하여-한국어 교육의 시점에서-(韓国語の分かち書きと単語認定につ

- いて-韓国語教の視点から)、朝鮮語教育-理論と実践-、査読有、4号、pp. 36-65、2009年。
- ⑧ 曹美庚、韓国人のパーソナル・スペースに関する一考察、査読有、九州大学大学院言語文化研究院言語文化論究、第24号、pp. 29-46、2009年。
- ⑨ 曹美庚、李相穆共著、활용형으로 찾는 한국어 Web 사전개발(活用形から引く韓国語 Web 辞書開発)、韓国語教育での談話教授に関する方法論的模索、国際韓国語教育学会、査読有、pp. 279-289、2008年。
- ⑩ 曹美庚、LMS を用いた韓国語教育と辞書開発、朝鮮語教育-理論と実践、査読無、3号、pp. 77-80、2008年。
- ⑪ 曹美庚、e-Learning システムを活用した自律学習環境づくりの試み：韓国語教育における実践を中心に、大学教育、第14号、九州大学高等教育開発推進センター、査読有、pp. 43-59、2008年。
- ⑫ 曹美庚、李相穆共著、韓国語学習者のための Web 辞書の開発、e-Learning 教育研究、査読有、第2巻、pp. 63-73、2008年。
- ⑬ 曹美庚、スキンシップ許容度とコミュニケーション距離：日本人大学生の分析結果を中心に、言語文化論究、第23号、九州大学大学院言語文化研究院、査読有、pp. 43-61、2008年。
- ⑭ 林炫情、李在鎬、曹美庚、浅尾仁彦共著、韓国語学習者コーパスの構築—韓国語学習者作文コーパスにおける検索ツールの開発—、信学技報、査読有、Vol. 108, No. 297、電子情報通信学会、pp. 21-26, TL2008-40、2008年。
- ⑮ 細谷行輝、e-Learning の考え方、e-Learning 教育研究、査読有、第3巻、pp. 38-41、2008年。
- ⑯ 杉浦謙介、佐藤滋、細谷行輝共著、WebOCM をベースにした基礎ドイツ語 e-Learning—東北大学全学教育での実践—、日本 e-Learning 学会、日本 e-Learning 学会 2008 年春季学術講演会発表論文集、査読有、pp. 1-8、2008年。
- ⑰ 黒田航、李在鎬共著、WWW を丸ごとデータにすると何がわかるか、日本語学、査読無、Vol. 27(2)、明治書院、pp. 22-36、2008年。
- ⑱ 李在鎬、用法基盤による言語研究の方法論とその実践に向けて、人環フォーラム、査読無、第22号、京都大学 人間・環境学研究科、pp. 44-46、2008年。
- ⑲ 李在鎬、浅尾仁彦、濱野寛子、佐野香織、井佐原均共著、タグ付き日本語学習者コーパスの開発、査読無、自然言語処理学会第14回年次大会論文集、pp. 658-661、2008年。
- ⑳ 小川典子、李在鎬、横森大輔共著、コーパス調査による形容詞の連体形と連用形の頻度、査読有、2008年日本語教育学会国際研究大会予稿集論文、pp. 581-587、2008年。
- 21 李在鎬、柴崎秀子共著、日本語リーダビリティ公式構築のための国語教科書語彙の分析、査読有、計量国語学会第52回大会予稿集論文、pp. 16-22、2008年。
- 22 曹美庚、活用形から引く韓国語 Web 辞書の開発に関する一考察、言語科学、査読無、第42号、pp. 49-62、2007年。
- 23 杉浦謙介、細谷行輝、伊藤直哉、竹蓋順子、大久保政憲、鈴木敦典、曹美庚、大前智美、李相穆共著、外国語 eラーニングシステムとしての WebOCM、査読有、LET 第47回全国研究大会発表論文集(外国語教育メディア学会)、pp. 226-231、2007年。
- 24 杉浦謙介、佐藤滋、李相穆、北原良夫、堀江薫、吉本啓共著、RSS と ID3 を用いた eラーニング・サブシステム、査読有、東北大学高等教育開発推進センター紀要、第2号、pp. 251-266、2007年。

[学会発表] (計 44 件)

- ① 竹蓋順子、曹美庚、林炫情、金眞共同、学習者のニーズに応じた韓国語語彙学習用 Web 教材の開発、第8回 e-Learning 教育学会、2010年3月13日、九州大学、
- ② 細谷行輝、大前智美、竹蓋順子、森真幸、新庄あいみ、WebOCM と Web4u、第8回 e-Learning 教育学会、2010年3月13日、九州大学、
- ③ 細谷行輝、WEB の多様性—テストの自動化—、第8回 e-Learning 教育学会、2010年3月13日、九州大学、
- ④ 細谷行輝、WEB を利用したテストの自動作成について、2009年12月11日、福井工業大学、
- ⑤ 曹美庚、能動的学習活動のための授業改善と学習支援、国際韓国語教育学会 32 回秋季学術大会、2009年10月24日、韓国慶熙大学、
- ⑥ 曹美庚、「スキンシップ許容度の国際比較：韓国と日本の大学生の分析結果を中心に」、東北アジア文化学会国際学術大会、2009年10月17日、韓国高麗大学、
- ⑦ 曹美庚、スキンシップ許容度の男女差とコミュニケーショントラブル、九州大学大学院言語研究会、2009年10月15日、九州大学、
- ⑧ 曹美庚、能動的学習活動としての Presentation 授業、九州大学大学院言語文化研究院・高等教育推進センター共同主催、2009年9月10日、九州大学

- ⑨ 曹美庚、Presentation 活動を用いた能動性発揮の学習支援、朝鮮語教育研究会 10 周年記念大会、2009 年 9 月 6 日、東京大学、
- ⑩ 林炫情、李在鎬、曹美庚、浅尾仁彦、韓国語学習者作文コーパス (KC Corpus) について、朝鮮語教育研究会 10 周年記念大会、2009 年 9 月 6 日、東京大学
- ⑪ 曹美庚、ICT とポートフォリオを用いた自律学習—九大の実践を中心に、国際研究集会 2009 : 外国語教育の文脈化 : 『ヨーロッパ言語共通参照枠』+ 複言語主義・複文化主義 + ICT とポートフォリオを用いた自律学習、2009 年 4 月 3 日~5 日、京都大学、
- ⑫ 前原かおる、李相穆、音声を利用した初中級日本語学習者向けデジタル漢字教材の開発、第 31 回 日本語教育方法研究会、2009 年 3 月 21 日、神奈川大学、
- ⑬ 李相穆、増田真理子、前原かおる、菊地康人、表記の学習支援を目的とした web 教材「日本語かつくん」の開発、第 31 回 日本語教育方法研究会、2009 年 3 月 21 日、神奈川大学、
- ⑭ 細谷行輝、WebOCM と Web4u のコンセプト、e-Learning 教育学会、2009 年 3 月 14 日、大阪大学、
- ⑮ 長谷川由起子、韓国語語彙の単語認定について—韓国語教育の立場からの検討—、第 40 回朝鮮語教育研究会例会、朝鮮語教育研究会、2008 年 12 月 13 日、京都キャンパスプラザ、
- ⑯ 林炫情、李在鎬、曹美庚、浅尾仁彦、韓国語学習者コーパスの構築—韓国語学習者作文コーパスにおける検索ツールの開発—、電子情報通信学会、思考と言語研究会、2008 年 11 月 29 日、機械振興会館
- ⑰ 細谷行輝、ヨコタ・ジェリー、細谷行輝、竹蓋順子、日野信行、林田理恵、これからの外国語教育、シンポジウムパネルディスカッション、2008 年 11 月 13 日、大阪大学、
- ⑱ 細谷行輝、ICT を活用した外国語教育の可能性、2008 年 11 月 13 日、大阪大学、
- ⑲ 小川典子、李在鎬、横森大輔、コーパス調査による形容詞の連体形と連用形の頻度、2008 年日本語教育学会国際研究大会、2008 年 11 月、韓国釜山大学、
- ⑳ 李在鎬、柴崎秀子、日本語リーダービリティ公式構築のための国語教科書語彙の分析、計量国語学会第 52 回大会、2008 年 11 月、武庫川女子大学、
- 21 増田真理子、前原かおる、菊地康人、李相穆、渡日前 e ラーニングをとまなう日本語短期サマーコース—IARU-GSP における初級レベルのコースデザイナー—、第 31 回 日本語教育方法研究会、2008 年 9 月 20 日、愛媛大学、
- 22 伊藤直哉、細谷行輝、杉浦謙介、サイバー・ユニバーシティ構想と外国語教育、パネルディスカッション、2008 年 9 月 17 日、東北大学、
- 23 細谷行輝、外国語 e ラーニングの展望—次世代システム Wb4u—、2008 年 9 月 17 日、東北大学、
- 24 曹美庚、コミュニケーション距離と異文化理解—スキップ許容度の日韓比較を中心に、多文化関係学会、九州地区研究会、2008 年 9 月 13 日、九州大学、
- 25 菊地康人、増田真理子、前原かおる、李相穆、動詞活用の理解・習熟をサポートする Web 学習教材、2008 年度日本語教育学会春期大会、2008 年 5 月 24 日、修道大学東京南大沢キャンパス、
- 26 曹美庚、李相穆、활용형으로 찾는 한국어 웹사전의 개발 (活用形で引く韓国語 Web 辞書の開発)、第 29 回国際韓国語教育学会、2008 年 4 月 12 日、韓国西江大学、
- 27 細谷行輝、竹蓋順子、CALL が実現する新しい外国語教育・学友支援、ICT が実現する次世代の教育・学習支援環境講演、ICT が実現する次世代の教育・学習支援環境、2008 年 3 月 28 日、長崎大学大学教育機能開発センター主催、長崎大学、
- 28 曹美庚、e-Learning としての WebOCM と韓国語教育、流通科学大学外国語教育学会招聘講演、2008 年 3 月 23 日、流通科学大学、
- 29 曹美庚、多文化共生時代の異文化理解、大邱カトリック大学経商学会、2008 年 3 月 20 日、韓国大邱カトリック大学、
- 30 李在鎬、浅尾仁彦、濱野寛子、佐野香織、井佐原均、タグ付き日本語学習者コーパスの開発、自然言語処理学会第 14 回年次大会、2008 年 3 月、東京大学、
- 31 曹美庚、ICT による韓国語教育と WebOCM 用辞書、九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト (IT 技術を活用したアジア言語教育環境構築) & 科学研究費基盤 B (韓国語語彙データベース構築と外国語サイバー・ユニバーシティ用韓国語 Web 辞書開発) 共催国際ワークショップ、2007 年 12 月 26 日、九州大学、
- 32 曹美庚、LMS を用いた韓国語自律学習と WEB 辞書開発、九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト (IT 技術を活用したアジア言語教育環境構築) & 科学研究費基盤 B (韓国語語彙データベース構築と外国語サイバー・ユニバーシティ用韓国語 Web 辞書開発) 共催ワークショップ、2007 年 12 月 26 日、九州大学、
- 33 李相穆、韓国語学習者のための Web 辞書の設計と開発、九州大学教育研究プログ

- ラム・研究拠点プロジェクト (IT 技術を活用したアジア言語教育環境構築) & 科学研究費基盤 B (韓国語語彙データベース構築と外国語サイバー・ユニバーシティー用韓国語 Web 辞書開発) 共催国際ワークショップ、2007 年 12 月 26 日、九州大学、
- 34 長谷川由起子、韓国語語彙および文法項目の使用頻度調査のための枠組み構築に向けて、九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト (IT 技術を活用したアジア言語教育環境構築) & 科学研究費基盤 B (韓国語語彙データベース構築と外国語サイバー・ユニバーシティー用韓国語 Web 辞書開発) 共催国際ワークショップ、2007 年 12 月 26 日、九州大学、
- 35 曹美庚、韓国語自律学習支援への取り組み、国際シンポジウム ICT による外国語教育と自律学習：二つのコストと学習支援、2007 年 12 月 17 日、北海道大学、
- 36 曹美庚、LMS を用いた韓国語教育と辞書開発、朝鮮語教育研究会、2007 年 12 月 15 日、京都キャンパスプラザ、
- 37 前原かおる、増田真理子、李相穆、菊地康人、PC とモバイルを併用した「かな」学習環境の開発—学習者の認知過程に配慮して—、2007 年度日本語教育学会秋季大会デモンストレーション、2007 年 10 月 7 日、龍谷大学、
- 38 曹美庚、CALL と TA を活用した韓国語教育—九大の実践を中心に、国立大学外国語教育連絡協議会、2007 年 10 月、東北大学、
- 39 曹美庚、韓国語における e-Learning 教育の現状と課題、山口県立大学国際文化学部 FD 研究会、招聘講演、2007 年 9 月 30 日、山口県立大学、
- 40 曹美庚、IT 技術を活用した韓国語教育の実践、第 155 回九州大学大学院言語文化研究院言語研究会、2007 年 9 月 26 日、九州大学、
- 41 前原かおる、増田真理子、李相穆、菊地康人、日本語の意味的・構造的な理解を強化するための聴解型オンライン学習教材の開発、第 29 回日本語教育方法研究、2007 年、9 月 22 日、京都教育大学、
- 42 曹美庚、李相穆、細谷行輝、韓国語 WEB 辞書の開発、第 4 回 e-Learning 教育学会研究会、2007 年 9 月、大阪大学
- 43 杉浦謙介、細谷行輝、伊藤直哉、竹蓋順子、大久保政憲、鈴木敦典、曹美庚、大前智美、李相穆、外国語 e ラーニングシステムとしての WebOCM、LET 第 47 回外国語教育メディア学会全国研究大会、2007 年 8 月 7 日～9 日、名古屋学院大学、
- 44 曹美庚、李相穆 共同、WenOCM を用いた韓国語授業と韓国語辞書開発、外国語 e ラ

ーニングシステムとしての WebOCM、LET 第 47 回外国語教育メディア学会全国研究大会、2007 年 8 月 7 日～9 日、名古屋学院大学、

〔図書〕 (計 12 件)

- ① 長谷川由起子、曹美庚、大名力共著、韓国語教材における語彙使用頻度調査研究、九州大学大学院言語文化研究院、言語文化叢書 21、2010 年、全 262。
- ② 曹美庚、李相穆 共著、韓国語文字・発音学習教材の開発、九州大学大学院言語文化研究院、言語文化叢書 20、2010 年、全 43。
- ③ 井上奈良彦、曹美庚、他 6 名共著、多言語学術プレゼンテーション、九州大学大学院言語文化研究院・九州大学高等教育開発推進センター、2010 年、全 247。
- ④ 曹美庚、林炫情、金眞共著、韓国社会を読む、朝日出版社、2010 年、全 72。
- ⑤ 曹美庚、林炫情、金眞共著、韓国文化を読む、朝日出版社、2010 年、全 78。
- ⑥ 細谷行輝、他共著、松柏社、英語フィロロジとコーパス研究、2009 年、全 580 (pp. 519-528)。
- ⑦ 松村瑞子、曹美庚、他 17 人共著、新医療とどう向き合うか—生命倫理の論文を読む—、九州大学言語文化研究院、2009 年、全 157。
- ⑧ 曹美庚、IT 技術を活用したアジア言語教育環境の構築、九州大学教育研究プログラム・研究拠点プロジェクト、2008 年、全 198。
- ⑨ 曹美庚、林炫情、朴賢珠共著、初・中級のためのイラストで解く韓国語リスニング、白帝社、2008 年、全 80 頁。CD-ROM1 枚。
- ⑩ 李在鎬、決定木を用いた多義語分析：多義動詞「出る」を例に、言葉と認知のメカニズム、山梨正明教授還暦記念論文集、ひつじ研究叢書言語編第 70 巻、ひつじ書房、2008 年、全 665 (pp. 87-101)。
- ⑪ 曹美庚、李希姪 共著、キャンパス韓国語、白帝社、2007 年、全 259。
- ⑫ 曹美庚、李希姪 共著、キャンパス韓国語ワークブック、白帝社、2007 年、全 137。

〔その他〕 (計 14 件)

- ① 竹蓋順子、曹美庚、林炫情、金眞共同、Keywords in Use Korean、CD-ROM 教材、2010 年 3 月。
- ② 曹美庚、大名力、長谷川由起子、韓国語教材コーパス、2010 年 3 月。
<http://www.geocities.jp/corpuskt>
- ③ 曹美庚、李相穆 共作、キャンパス韓国語確認問題、九州大学 Web 教材、2009 年 7 月。

- <http://ijapanese.net/korean/materials/mondai/>
- ④ 曹美庚、李相穆共作、イラストで学ぶリスニング、九州大学 Web 教材、2009 年 6 月
<http://webocm.gened.kyushu-u.ac.jp/CH0/isound/korean.html>
- ⑤ 曹美庚、李相穆共作、発音と文字のビデオ、九州大学 Web 教材、2009 年 5 月。
<http://ijapanese.net/korean/materials/introIndex/introIndex.html>
- ⑥ 曹美庚、李相穆共作、Campus Korean、九州大学 Web 教材、2009 年 5 月。
<http://ijapanese.net/korean/materials/campusVideo/index.html>
- ⑦ 曹美庚、李相穆共作、Campus Korean(Listening)、九州大学 Web 教材、2009 年 5 月。
<http://ijapanese.net/korean/materials/campusVideo/index2.html>
- ⑧ 林炫情、李在鎬、曹美庚、浅尾仁彦共作、韓国語教育資料共有資源のためのコーパス構築：日本語母語話者の作文データベース化を中心に、KC 学習者コーパス、2008 年 5 月。
<http://www12.atwiki.jp/kccorpus/pages/14.html>
- ⑨ 曹美庚、李相穆共作、韓国語の正しい書き順と発音ビデオ、CD-ROM 教材、九州大学、2008 年 5 月。
<http://webocm.gened.kyushu-u.ac.jp/CH0/video/hangeul.html>
- ⑩ 細谷行輝、曹美庚、李相穆共作、韓国語学習者用 Web 辞書、WebOCM 用韓国語 Web 辞書、大阪大学サイバー研究開発センターWebOCM に搭載、2008 年 4 月。
<http://www18.mle.cmc.osaka-u.ac.jp/WebKDIC/default.aspx>
- ⑪ 曹美庚、キャンパス韓国語 DVD 学習教材 2 枚、2007 年、12 月、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト、九州大学
- ⑫ 曹美庚、韓国語の正しい基本発音、DVD 学習教材 2 枚、2007 年、12 月、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト、九州大学
- ⑬ 曹美庚、李相穆共作、韓国語文字の正しい書き順、CD-ROM 学習教材、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト、2007 年 12 月。九州大学
- ⑭ ホームページ等
<http://www.geocities.jp/corpuskt>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曹美庚 (CHO MIKYUNG)
九州大学・大学院言語文化研究院・准教授

研究者番号：19320082

(2) 研究分担者

長谷川 由起子 (HASEGAWA YUKIKO)
九州産業大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：40330790
細谷 行輝 (HOSOYA YUKITERU)
大阪大学・サイバーメディアセンター・教授
研究者番号：90116096
李 相穆 (LEE SANGMOK)
九州大学・大学院言語文化研究院・招へい外国人教師
研究者番号：60400298
(平成20年→平成21年)
李 在鎬 (LEE JAEHO)
国際交流基金日本語試験センター・研究員
研究者番号：20450695
(平成21年)
鈴木 敦典 (SUZUKI ATSUNORI)
(九州大学・大学院言語文化研究院・准教授：死亡)
研究者番号：30253850
(平成20年)

(3) 連携研究者